

ウェイ ラ ミン ティエン

# 为 了 明 天

—— 明日のために ——

## 子どもたちに希望を 人々に友情を

特定非営利活動法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会

<http://www.sokeirei.org>

## 中国宋慶齡基金会 創設25周年と “母嬰平安”プロジェクトの展開

2回の訪中：北京—河北省、上海—貴州省 訪問から…

代表理事 久保田 博子



□ 5月28日、中国宋慶齡基金会は、創設25周年の記念式典を釣魚台迎賓館で開催しました。1981年5月29日に宋慶齡女史が逝去され、翌年同女史の国内外の友人によって、世界平和と子どもたちの健全な育成に献身された女史を記念して結成されたのでした。現在では、中国国内ばかりでなく、世界各地に宋慶齡基金会あるいは孫逸仙夫人基金会が長期に亘り、自主的な民間団体として存在し、子どもの幸福と平和共存を掲げて支援・交流活動をしています。

■日本の宋慶齡基金会は、近代100年の日中関係史における日本人としての贖罪を踏まえ、次世代の日中友好の基礎を培うため、1984年に宋慶齡日本基金会として発足し、2000年に宋慶齡基金会日中共同プロジェクト委員会(JCC)として改組、再発足し、現在に至っています。歴史的に特殊な日中関係のもとで、未来に向かってより親密な友好関係を築いてゆきたいという趣旨で、他国の宋慶齡基金会とは相異しています。他国の宋慶齡基金会は、自国の子どもを主たる対象にして活動していますが、私たちは、「中国の未だ恵まれない子どもたちへの支援」を通して、友好の種をまきたいと願っています。言い換えれば、JCCは、友好交流と相互理解を目指して支援活動を行なっています。



□ 8月30日 貴州省貴陽で“母嬰平安”プロジェクト始動式が行なわれました。中国宋慶齡基金会・中国福利会(上海宋慶齡基金会)が中央政府の助成と米国企業の寄付を受けて、同省内の18地域の衛生院に母子保健センターを開設し、産科・小児科の医療機器・設備を贈呈する儀式でした。

■“母嬰平安”プロジェクトは、2000年、上海宋慶齡基金会が「生命工程」(生命を救うプロジェクト)としてアピールしたのが最初でした。JCCは、これを緊急の課題として受けとめ、

03年、貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院に母子保健センターを開設し、先進的な産科・新生児科の医療機器・設備を寄贈し、医療スタッフの研修を支援し、妊婦の入院分娩を促進するため個々の妊婦に経費の一部を援助しました。

これらの事は、現地の母子保健事業の近代化と発展を着実に推進しました。JCCは、翌年日本外務省に働きかけ、「草の根無償」資金により、貴州省惠水県の衛生院にも同様の母子保健センターの設立を応援しました。さらに、JCCは、現地スタッフの熱心で誠実な努力を後押し、彼等がより多くの人々の危急に対応できるように、昨年救急車を寄贈しました。

□このたびの“母嬰平安”プロジェクトでは、JCCの母子保健支援事業が先駆的役割を果たし、モデルになったと繰り返し評価されました。皆様のご支援に感謝いたします。

# 中国宋慶齡基金会25周年 記念パーティー出席と河北省易県視察の旅

## 理事 諏訪 きぬ

第17次訪中団の目的は三つ、中国宋慶齡基金会25周年記念パーティーに出席して、祝賀の意を表すること、数年前から展開している河北省易県での支援実績を視察すること、長らく易県の学生に奨学金を援助されてきた故柳田女史の意を受けて、「白馬中学寄宿舎建設支援」について話し合いを詰めること、でした。この他にも、易県教育局に紙芝居50セットを寄贈し、紙芝居を普及するという使命も帯びていました。

5月27日に成田をたち、翌28日には釣魚台迎賓館において、胡啓立主席、劉延東副主席等200余名の関係者が出席して、中国宋慶齡基金会25周年記念パーティーが執り行われました。式典では中国宋慶齡基金会の種々の活動の紹介、その意義や役割を強調するスピーチ、に歌やダンスが加わって、華々しいお祝いがなされました。そこには日本の宋慶齡基金会と親交のあった黄華夫人、馬海徳夫人、張愛栄さんらと再会を喜び合う姿もあり、JCCの取り組みの確かさが感じられました。

翌29日は宋慶齡故居で行われた文物展示館定礎式に参列、翌日河北省易県に入りました。易県は北京の南西に位置し、日中戦争当時は抗日戦線の基地が置かれ、日本軍が三光作戦(奪い・焼き・殺し尽くす)を展開した地です。反日感情が潜在しているであろう地を選んだJCCの教育支援は、教育図書、机・椅子の援助、奨学金の供与と多岐に及んでいます。30日は西稜行宮招待所において5名の女子中学生に柳田奨励金を手渡した後、流井郷中心幼稚園と豹泉小学を訪問。以前に比してずい分立派になった幼稚園では、5歳クラスで紙芝居を実演し、その効用を史流井幼稚園長や張課長らに理解してもらう場を設けました。しかしその効用にたくさんの言葉を重ねる必要はなく、紙芝居を見つめる幼児たちの真剣なまなざしそのものが、その意義を雄弁に物語ってくれているように思いました。



その後ダルマ落としや紙風船で子どもたちと楽しく交流しました。

翌31日には県庁を表敬訪問し、郝順清副県長、張教育局長と会見。柳田基金で寄宿舎建設を支援する白馬中学で打ち合わせを行った後、夏庄小学・界安初級中学・裴山中学の3校訪問。施設・設備の整った学校のある反面、校舎も施設・設備も粗末な学校もあり、その格差の大きさに胸ふさがる思いを味わいました。暗い裸電球ひとつ灯った教室の中で、朽ちかけた机に向かい、懸命に作文に励んでいた豹泉小学の児童たちの授業風景が、今なお、まぶたに浮かびます。寄宿舎建設をする白馬中学での紆余曲折した話し合いに同席して、善意で寄せられる「貧者の一灯」、その基金を有効に支援として実らせるためには、予想以上の根気や労力が要ることを知りました。

狼牙山にある河北省抗日記念館(河北省愛国主義教育基地)を参観し、北京にもどった翌2日は八宝山革命烈士陵园参。『宋慶齡』の著者エプシュタイン氏や宋慶齡日本基金会成立大会に出席して下さった馬海徳氏の墓に花を手向け、日中の友好と平和を祈って手を合わせました。釣魚台迎賓館と貧困地区の学校風景と…という、あまりにも落差の著しい17次訪中団の体験は、「白馬の教訓」とともに、今後の中国教育支援のあり方をJCCが問い直していく上で、示唆多いものであったと感じています。詳しくはホームページをご覧ください。

# 母子保健支援プロジェクトの意義と成果を実感

副代表理事 山下 知子

JCCは、02年より、緊急プロジェクトとして貴州省凱里市三棵樹鎮衛生院に「安全な出産と子育てのために」母子保健センター（婦幼保健中心）の設置、産科医療設備、助産師の養成など総額約400万円の支援をしてきた。

貴州省は、天然資源に恵まれているが、経済開発の遅れから、女性や乳幼児の保健衛生まで資金が行き届かなかった。その中で「出産をめぐる母子の命を守る活動（生命工程）」を推進している上海宋慶齡基金会、中国福利会を通して、凱里市三棵樹鎮人民政府がJCCに支援を求めてきた。（JCCニュースNo.6,7）

苗族、トン族などが98%をしめる地域は、長い間、経済文化交通などのたち遅れと、古い慣習の影響から、助産入院分娩の普及、妊産婦新生児に対する管理が行き届かず、産科救急に応じることが困難であった。

03年7月より、貴州省衛生庁、凱里市婦幼保健センター、三棵樹鎮衛生院などがそれぞれの立場で準備を行い、03年8月には三棵樹鎮人民政府が、入院分娩の必要性和重要性を指摘する通知を全家庭に配布、経費を100元におさえることも公約したが、妊婦たちにとってその負担も難しかった。そのため、JCCは、妊婦に100元ずつ給付する援助を3年間実施した。



05年9月、三棵樹鎮を訪問したJCC代表団は、衛生院スタッフの熱意が活動にあふれ、医療器具が十分に活用され、適切に管理されていることを目の当たりにし、大変嬉しく感激した。当衛生院の活動は、三棵樹鎮のみならず、周辺地域の母子保健、医療にも拡大し、さらに機動力を要望してきた。JCCは、それに応え、皆様のご支援を得て、昨年秋、同衛生院に救急車を寄贈した。

本年8月30日、貴州省衛生庁大ホールで「母嬰平安項目啓動」儀式があり、JCCの救急車寄贈に対する感謝状が久保田代表理事に手渡された。その際、02年に始まるJCCの母子保健支援のプロジェクトが、この地域での先駆的モデル的役割を果たしたことが関係者によって語られた。

この儀式で、三棵樹鎮衛生院院長は「日本JCCの支援を受けてから、各方面で設備、技術、人的配置がよくなり、妊婦の入院分娩率、嬰兒死亡率、妊婦死亡率がいずれも大幅に改善した。例えば嬰兒死亡率は、2000年の48.6%から06年の27.8%、入院分娩率はそれまでの15%から06年には60%まで向上。婦人科の子宮筋腫、卵巣のう腫以外の外科的手術も行えるようになった…06年の救急車の配備により、07年8月までの病人搬送はのべ398件、そのうち産科269件、周辺の鎮より148件と救急対応の範囲が拡大している…」と報告され、深い喜びを覚えた。





# 日中戦争とは何だったのか— 未来志向だからこそ過去の検証を

盧溝橋事件70周年に際して

中央大学教授 姫田 光義

毎年8月15日の正午、甲子園球場は1分間の静寂に包まれる。高校野球に熱中している私も、三百数十万の日本人死者、とりわけ靖国神社に祀られることのない無告の民を衷心から悼みながら、他方ではかならず考えざるをえないのは、黙祷を捧げている全国の日本人のうち、どれだけの人々が7月7日(盧溝橋事件)や9月18日(満州事変の発動)や12月17日(南京入城・大虐殺)などの日に思いをはせるだろうかということである。被害者としての死者への哀悼は加害の結果であり、その加害者としての自覚の欠如が今日の日中間の感情の摩擦の根底にあるのだと思わせる。

それは歴史記述において如実に表れている。「日中戦争の全面化」などという言い方は客観的で中立的だが、これを中国側のいう「抗日戦争」と対比させれば一目瞭然、曖昧で無責任で無情でさえある表現だということが分かる。抗日戦争に対比できるのは「対華侵略戦争」でありその「全面化」でしかありえないのだが、侵略戦争とか加害者だという自覚のない今日の日本では通用しそうな用語法だろう。そのようなわが国の感情と認識の土壌の上に、「大東亜戦争 ABCD包囲網を打ち破る自衛とアジアの解放のための聖戦」論や「アメリカに負けたのであり中国に負けたわけではない」といった謬論が公然と主張され持て囃される。その誤りは、当時の国際情勢(反ファシヨ国際統一戦線の結成)と中国国内の動向をちょっと知りさえすれば、そして日本の政策決定の過程をおぼいしさえすれば明らかなのだが、そのへんの都合の悪いところはみなすっ飛ばされて、都合のよいところだけがつまみ食いされて歴史が再構成されようとして

いるのである。それは今日の国際常識(日本のinvade)をも真っ向から否定するものであろう。

日本人の歴史好きというのは、日常生活から逃避して英雄豪傑・才子佳人に憧れ、ときたま哀れな弱者に涙する判官びいきの域に止まるものなのだろうか。歴史は過去のものだが、今生きている者の生き様を映し出す鏡でもある。白雪姫のなかのおばあさんのように「鏡よ鏡、世界で一番美しいのは、誰だ?」と言って自己満足したり本物を映し出すと怒ってぶっ壊したりするようなことでは困る。国際社会は他者と自者との共生によって成り立っているのだからこそ、今後ますます他者の痛み悲しみへの理解、同情、共感がなければならず、自者だけに沈潜しているわけにはいかないであろう。北朝鮮拉致被害者への涙の一滴でも、強制連行、南京大虐殺、「従軍慰安婦」などでの被害者に注がれれば、日中・日韓間の歴史認識問題での摩擦は解消されるのと思う今日ごろである。

## 第11回 JCC 中国講座

### 在日中国人の現在— 日中間の人の移動を考える

講師：田嶋 淳子さん 法政大学 社会学部 教授

日中間の人の移動はこの35年来拡大の一途をたどっています。在日中国人の出身地域は大都市から東北地方に広がりを見せています。高学歴層を中心としながらも、流入経路は拡大し、留・就学、国際結婚、研修・就労など様々な形で広がっています。講座では、いくつかの事例からこうした在日中国人の現在をご紹介します。

日時 2007年11月3日(土)

場所 八王子労政会館 第4会議室 (参加費 500円)

主催：NPO法人 宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
問合せ：TEL & FAX 042-646-4210

## 2007年度 教育支援の実施状況

### (1) 「机と椅子」整備支援

400セット／45万円：送金済み

支援先…河北省易県高陌初級中学、  
塘湖初級中学

### (2) 図書セット寄贈

5セット／40万円：送金済み

寄贈先…河北省易県高陌初級中学、  
塘湖初級中学、紫荆関初級中学、  
易県第二小学、凌雲冊郷大巨小学

### (3) 日本語教材支援

テキスト・カセットテープ等 10点

寄贈先：寧夏回族自治区 西北民族学院日本  
語科

★同学院及び担当教授より感謝状がとど  
いています。

### (4) 柳田奨励金

柳田女子中学生奨学金の04-06年受給生の  
内、優秀生徒5名に奨励金各1万円を授与  
…5月30日、易県西稜行宮にて

### (5) 河北省易県白馬中学寄宿舎建設支援

柳田基金総額 300万円

① 4月19日…白馬中学寄宿舎建設支援要請  
関係資料を受け取る。

② 5月31日…第17次訪中団白馬中学を訪問

★当初は、事前に送付しておいた同寄宿舎  
建設支援協定書の検討と調印を予定し  
ていたが、この時点で寄宿舎はすでに8割  
が完成し、生徒が居住していた。

★学校側の説明によると、昨秋校舎の新  
築に伴い、白馬中学を中心に三中学が  
合併し、生徒が急増したため、寄宿舎



の建設が急務となった。それで、旧校舎  
を改造、一部新築し、250床の鉄製ベッ  
ド、厨房、暖房設備を新調した。資金  
は、日本側の支援を期待して借金して  
いる。とのことであった。

★ JCCとしては、実情に沿った協定書の修  
正に応じ、付設工事として、食堂と洗面  
所・トイレ（国家最低基準）の新設を  
求めた。浴室は、電力・水の不足のため  
計画から削除した。

★ 8月19日 協定書の三者調印が完了し、第  
1次送金(200万円)を実施した。

### (6) 奨学金給付について

- ・貴州省凱里市小学生100名に対する年額  
1人1500円の創価大学学生奨学金の給付  
…9月1日、賞郎小学校にて実施  
同時に、賞郎小学校新1年生に新華辞典  
を寄贈
- ・その他の奨学金については、現在受給者  
名簿を現地に請求中

## 暖かい集いでした—留学生 応援会

9月30日 NPO八王子市日中友好協会とJCCの共催で、第1回留学生  
応援会が八王子市子安市民センターで開かれました。中国、台湾からの



留学生や日本人学生15名と八王子市

市民活動推進部や市民の皆さんの参加が

ありました。餃子を一緒につくり、二胡の演

奏など楽しい交流ができました。留学生へのプレゼント  
をご寄付下さった皆様、ありがとうございました。



- 5月16日 中国宋慶齡基金会より連絡：①易県児童への寄贈紙芝居50セット北京に到着 ②プロジェクト実施関係
- 5月17日 上海宋慶齡基金会よりEMS：貴州省凱里市奨学金領収証・感謝状
- 5月19日 第46回事務局会議
- 5月26日 第10回JCC中国講座：姫田光義氏「日中戦争とは…未来志向だからこそ過去の検証を」
- 5月27日 第17次訪中団6名、成田出発／北京着
- 5月28日 代表団、中国宋慶齡基金会設立25周年記念会に参加：釣魚台迎賓館にて／胡啓立主席等関係者200余名出席  
・胡啓立主席招待宴：俞貴麟・叱利群・唐聞生 四副主席及び日本・イタリア・フィリピン代表団同席／JCCより記念楯贈呈
- 5月29日 宋慶齡故居文物展示館定礎式に参加  
・中国宋慶齡基金会スタッフ・各地宋慶齡基金会代表と交流昼食会
- 5月30日 代表団、河北省易県へ…柳田奨励金授与／流井郷中心幼稚園訪問／夏庄小学・豹泉小学参観
- 5月31日 易県県庁に郝順清副県長を表敬…白馬中学寄宿舎支援基金・紙芝居50セットの目録贈呈／白馬中学訪問一寄宿舎建設支援について会議  
・界安中学・裴山中学参観
- 6月 1日 河北省抗日記念館参観／北京へ／中国宋慶齡基金会李寧秘書長招宴
- 6月 2日 八宝山革命烈士陵のエプシュタイン・馬海徳 両氏のお墓に参詣
- 6月 3日 帰国  
——— ★訪中の期間に 06年度プロジェクト事後処理、ほぼ完了
- 6月15日 中国宋慶齡基金会よりEMS：白馬中学寄宿舎建設図面・精算書・許可証及び「机と椅子」・図書セット寄贈先概況
- 6月23日 第47回事務局会議
- 6月25日 〈留学生応援会〉準備会：八王子市日中友好協会と合同
- 6月26日 中国宋慶齡基金会と連絡：①白馬中学寄宿舎建設協定書案における浴室付設の可否について ②紙芝居30セット追加寄贈の件

- 6月29日 中国宋慶齡基金会に送金85万円：①易県中学に対する「机と椅子」400セット45万円 ②易県の小中学校に対する図書セット40万円
- 7月 1日 八王子市日中友好協会第2回総会に出席
- 7月12日 白馬中学寄宿舎建設支援協定書を中国宋慶齡基金会に発送
- 7月17日 〈留学生応援会〉第3回準備会：八王子市日中友好協会と合同
- 7月21日 第48回事務局会議
- 8月 7日 〈留学生応援会〉第4回準備会：八王子市日中友好協会と合同
- 8月18日 第18次 訪中準備会
- 8月27日 中国宋慶齡基金会よりEMS：白馬中学寄宿舎建設支援協定書三者調印完了
- 8月29日 第18次訪中団11名、成田出発、浦東着
- 8月30日 代表団、貴州省貴陽へ／貴州省衛生庁にて“母嬰平安”項目啓動儀式に参加—JCCに救急車寄贈に対する感謝状、貴州省省長招待宴
- 8月31日 代表団、中国宋慶齡基金会・上海宋慶齡基金会・貴州省衛生庁関係者と凱里市三棵樹鎮衛生院視察／医療・衛生用品を寄贈・凱里市市長招待宴
- 9月 1日 代表団、賞郎小学校を訪問／奨学金・新華辞典を贈呈
- 9月 2日 代表団、貴陽より上海（虹橋）へ／宋慶齡陵園参観／答礼宴
- 9月 3日 代表団7名、帰国
- 9月 7日 中国宋慶齡基金会に送金200万円：白馬中学寄宿舎建設第1次支援金
- 9月15日 第49回事務局会議
- 9月30日 第1回〈留学生応援会〉開催：八王子市子安市民センター
- 10月 2日 08年度大型プロジェクト検討会
- 10月20日 “為了明天”第14号発行



## 編集後記

今夏は未曾有の猛暑日が続き、そのせいで大発生したか、珍しく蝉の声が激しかった。みんみん・油蝉・法師蝉…それが突然消えた途端に、虫の音に替わり、十五夜の月が美しくかった。ところが今年は一匹の蜻蛉も見ない。雀の声も殆ど聞こえない。台風の大形化は来襲の都度、大きな被害が報ぜられる。全国の支援者の皆様に思いを馳せて、平安を、そしてご清栄を祈るや切である。留学生応援会にタオル等沢山有難うございました。（三浦）

## 「為了明天」No.14

2007年10月20日発行

題字：周 肖  
編集：三浦・井上

発行者：NPO法人宋慶齡基金会 日中共同プロジェクト委員会  
久保田博子

〒192-0904 東京都八王子市子安町1-43-6-206  
TEL/FAX 042-646-4210

郵便振替：00170-2-152423

三菱東京UFJ銀行八王子支店（普通）4731623